

参院選1票格差 岡山「合憲」

原告「是正義務付き」評価

有権者 格差や制度に疑問も

7月参院選の「1票の格差」訴訟で広島高裁岡山支部が「合憲」の判決を言い渡した8日、提訴した原告の男性「岡山県内在住」と弁護士グループは、岡山市内で会見。選挙無効の請求は退けられたものの、格差解消に向けた「是正義務付き」の判断だったと評価した。地元有権者からは格差がある状況への疑問や、選挙制度見直しを求める声が続出した。(一面関連)

原告側の升永英俊弁護士「いと言及した判決を評価し、えなければならぬというは、都道府県単位の選挙区。た上で「国民と議員の多数 訴訟の趣旨に沿っている」の抜本的な見直しを望み、意見が一致しない現状を変え、と指摘。一方で、格差縮小

を狙いに隣接県を一つの選挙区にする「合区」については「有権者の無関心を招き、投票率低下につながる不合理的な制度」と批判し、全国を複数の選挙区に分けたブロック制への移行を訴えた。また「格差は正が未達成状態の選挙で選ばれた議員



判決を受け、岡山市内で会見する原告側の弁護士グループ

判断に違和感

法政大の小黒一正教授(公共経済学)「1票の格差」が最大3・00倍だった前回参院選に比べ、今回はさらに格差が拡大したにもかかわらず、裁判所が合憲とした判断に違和感を覚えるを得ない。人口減少が進む中、地域の声を国政に反映させること1票の格差のバランスを取るには、隣接県を一つの選挙区にする「合区」の導入を進めるといった取り組みが必要だ。選挙制度を今後どうしていくのか、国民一人一人が真剣に考える必要がある。

識者談話

合区問題ある

広島法科大学院の新井誠教授(憲法)「7月参院選を合憲とした判決は、格差が徐々に縮小してきた経緯や選挙制度の在り方を巡る国会の議論などを十分検討しており、妥当な判決と言える。ただ私自身合区は非常に問題があると考えている。大半の議員は都道府県単位で選出される中、「合区された」鳥取・島根「徳島・高知」の2選挙区が犠牲になっている。地域との関係から参院の役割を協議し、合区ではない解決策を見いだすべきだ。

の活動には正当性がない」との判断には納得できない面とし、上告したことを表明。原告の男性は「格差が是正された新制度になり、意思が反映されやすくなれば投票率も上がるだろう」と話した。岡山市内で居酒屋を営む松口和夫さん(70)「同市北区富田町」は「格差があるまま選挙が行われている状態には違和感があり、合憲

の判断には納得できない面がある」と、ただ各地の裁判所で判断が分かれていることについては「どう捉えればよいのか」と困惑する。岡山法大大学院生の杉浦香菜さん(25)「同学南町」は「人口減少などを踏まえると、時代に合った選挙のやり方を改めて考える時期がきているのでは」と語った。